
市民による自主緊急救助法（サート・CERT）とは
（矢作征三、巨大災害に立ち向かうニッポン、社会評論社、2015、p.82-109）

2018年2月9日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

地震や爆発事故などで倒壊した建物の瓦礫の下に閉じ込められたけが人を、プロのレスキュー隊が到着するまでの間に命を守る貴重な時間帯を、黄金の時間帯という。この黄金の時間帯に、住民や会社の同僚たち、その場に居合わせた人たちがけが人を助け出す手法を自主緊急救助隊（サート：CERT Community Emergency Response Team）と呼ぶ。この手法の発祥はカリフォルニア州ロサンゼルス市の消防（LAFD）で、その後アメリカ合衆国政府によって全国的に取り入れたものである。このアイデアは、ロサンゼルス市の消防隊が来日し見学した火災の消火活動で行われている住民によるバケツリレーにヒントを得たものである。つまり、大規模災害時にはプロのレスキュー隊が不足し、一般地域住民の協力が欠かせないということから、それぞれ自分の地域の災害直後貴重な時間帯に住民がけが人を助けることに率先して取り組むものである。実際の災害時には、プロのレスキュー隊が到着するまでの間、サートのゼッケンやヘルメットを着用し災害現場の第一線で救出作業を行うことが認められている。

地域緊急救出班（CERT）には、1. 探索・トリアージ 2. 救出作業 3. 緊急搬送の3つの基本的構成要素がある。CERTの目的は、限られた人的・物的資源制約の下、最大多数の傷病者に最善の医療行為が行えるよう、できるだけ多くの人命を救う行為を行うことである。災害時に被災者の中の「重傷者」をできるだけ早く見つけ出し救出することは、より多くの被災者の命を救う結果をもたらす。「重傷者」とはすぐに助け出さないと命が危ない状態の被災者をいう。

災害現場で救助作業に従事するとき、周囲の安全を慎重に確認し、自分たちの身の安全を守ることは大前提である。現場が危険である場合は、決してけが人の救助作業に取り掛かってはいけない。また、救助作業に取り掛かるときは、最低3名がそろふ必要がある。3名のうち1名がリーダーとして負傷者を探し、負傷者一人ひとりのけがの状態を判定する役割を担う。もう1名は記録係として、リーダーが判定した負傷者の色別されたけが人の状態を記録する。記録担当もけが人の色別判定をチェックし、異論がある場合は、リーダーにその旨を伝える。色判別は、重傷者（赤色）、中等傷者（黄色）、軽傷者（緑色）、死亡者（黒色）である。災害現場にはノートなど書き込むものがないため、ガムテープやダックテープなどを利用して、30センチ程度の長さのテープを腕や、股の全面に貼り付け、それをノート代わりに使い、発見した負傷者のけがの程度や人数、助け出しやすいかどうか

かを簡潔に記録する。負傷者にも色分けしたテープ、あるいはトリアージタグを付け、後で救出班が識別しやすくしておく。一人のけがの判定作業は手早く行いあまり時間をかけない。長くて一人当たり1分程度に止め、次の被災者を探す。現場の探索・トリアージ作業完了後、現地指揮所に急いで戻り、結果を報告し一連の作業が終了する。

負傷者のけがの状態・症状を判定する方法として以下の4つがあげられる。

①歩行可能かどうか確認する。歩いて来られるかを確認する。②気道を確保する。負傷者の呼吸の有無を確認する。③血液循環を確認する。人差し指の爪元を強く抑え、離れた時爪先がピンク色に戻るまでの時間を判定するテスト④意識状態を確認する。簡単な指示に対して正常に反応することができるかどうかを判定する。負傷者を見つけ、症状を判定する過程で、負傷者が止血や骨折の場合は添え木で固定するなど、それぞれの症状を安定させるような簡単な応急処置を施す。ただし治療行為は決して行わない。負傷者の意識がもうろうとしている場合は、頭部、頸椎や背骨などに損傷を受けている場合がある。体位を動かす場合は十分な注意を要する。また、呼吸がなく、血液循環が弱い状態の負傷者が見つかって心臓蘇生は行わない。その理由は、いったん心臓蘇生行為を始めると、救助隊が到着するまで、あるいは心臓の動きが復活するまで、その行為を続けなければならないからである。一人に対応している間に、他の残された負傷者をトリアージすることができなくなり、結果として、より多くの人の命が救えなくなるからである。

救出作業は、負傷者の身体の上に倒壊した壁や柱などの重量物が載っている状態で被害者が自力脱出できない場合に行われる。救出作業の役割に必要な人数は5～6名である。それぞれ、1.リーダー役 2.持ち上げ役 3.木材担当役 4.介添え役を担当する。被害者の身体の上に載っている重量物は、バールなどでこの原理を用いて持ち上げる。

緊急搬送とは、災害現場でトリアージされ、瓦礫の下から救出された重傷者を、危険が残る被災現場から安全な場所まで、安全に搬送することをいう。現場の近くの医療救護所は、救出された負傷者が一時待機する場所で負傷の度合いにより赤色、黄色、緑色で識別されている。重傷者を赤色の区域まで運び、その担当者には、症状や被災現場の状況などを簡単に説明し、引き渡すまでの一連の作業である。緊急搬送の方法には、いくつかの選択肢がある。これは、その場所において負傷者を載せて搬送する道具が何かによる。例えば、担架、スパインボード、ブルーシート、毛布、戸板、ドア、折り畳み式長机などが挙げられる。